

北海道医療新聞

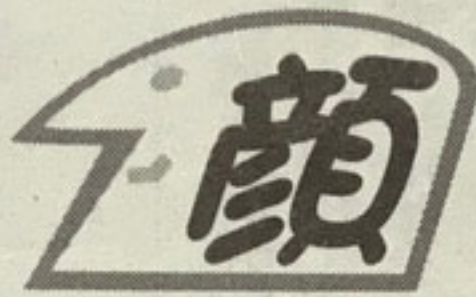
6月15日
2018年・2229号
毎週金曜日発行
年間購読料20,000円
(前納/税別)
発行所

株式会社北海道医療新聞社

〒060-0042
札幌市中央区大通西6丁目
(北海道医師会館)

TEL 011(221)7777
www.medim.co.jp

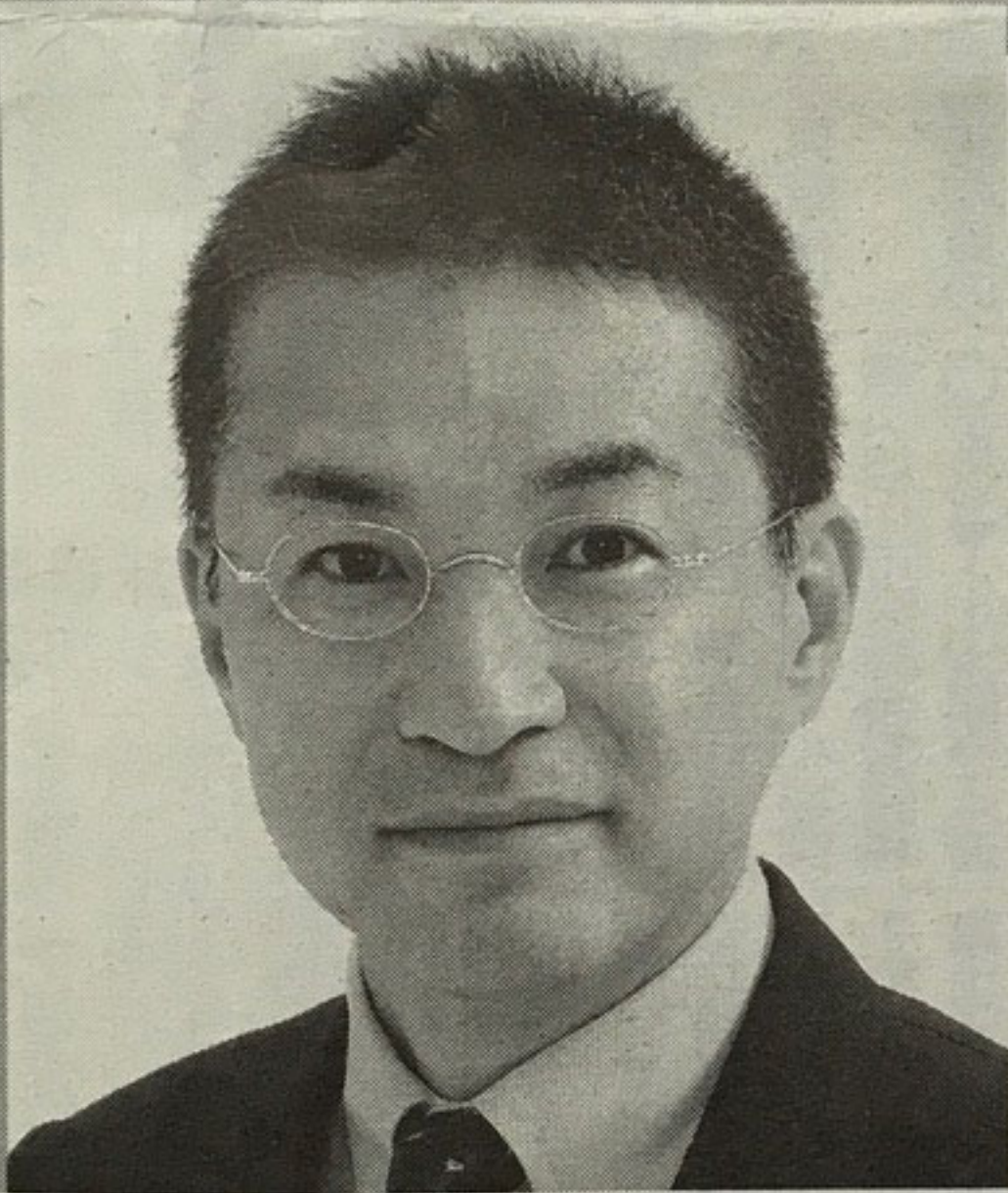
第16回日本ヘルニア学会学術集会在、29日から2日間、札幌コンベンションセンターで開催される。初の道内開催で、演題数は過去最高の628



題、参加者は800人以上を見込む。

斗南病院の川原田陽消化器外科センター長が当番世話人を務める第12回日本腹腔鏡下ヘルニア手

第16回日本ヘルニア学会学術集会在を主宰する



宮崎 恭介氏

術手技研究集会、沖縄県のハートライフ病院の嵩原裕夫ヘルニアセンター長が世話人の第17回L

PECC研究会と合同開催で、Hernia Week 2018 SapporoJ 題して行う。

鼠径部ヘルニアの治療法は、鼠径部切開法と腹腔鏡下ヘルニア修復術が

3本の矢で方向性提示

複数あり、メッシュも20種類を超え、病院ごとに治療方針も異なる。学会テーマを「オープン」「ラパロ」「教育」の3本の矢に見立て、若手医師に方向性を示したい考え。特別講演は、デンマークのアンドレセン氏がヘルニア症例データベース、タイのスーテップ氏が凍結遺体によるトレーニングを講演する。

どちらも、関心が高く、「課題解決の糸口が見えてくるかも」と期待を寄せている。

みやざき外科・ヘルニアクリニック理事長。